

平成16年度山梨県職業能力開発審議会における意見等

第1回審議会（平成16年6月17日開催）

ビジネスキャリア制度は大企業が人事昇進の面などで取り入れている。

職業訓練を受けた後、就職できないと無駄な投資をすることとなる。

職業訓練が活かされ、かつ雇用されはじめて制度としては活かされていく。求人者が求めている人材をいかに与え、かつ求職者の職業に対する自発性を喚起していくかが大切である。

フリーター対策について国の施策が新聞記事に出たが、県レベルで考えている施策はあるか。

障害者訓練の対象者は職安の受講指示・推薦とあるが、授産施設に入所する者も増えている。就職支援も含めて今後の障害者への支援活動をどのように進めていくのか。

労働者の自発性と就職を結びつけるための施策やキャリアコンサルティングの支援はどのように行うのか。

工業高校、短大校、企業で働く者を対象に山梨県版の技能五輪を開催したいので協力して欲しい。

職業能力開発施設や技能グランプリなどの認知度が低い。周知に力を入れて欲しい。

技能検定を受験するための準備講座を設けて欲しい。

仕事を通じての教育は厳しい状況なので技能検定のための講習を実施してもらえるとありがたい。

第2回審議会（平成16年11月15日開催）

職業訓練の受講者で関連職種への就職率が低いデータがある。訓練が活かされた形で関連した職種への就職率を上げるにはどうしたらよいか考える必要がある。

調査の結果を見て、高校の進路指導の認知度、指導の仕方が充分ではないと感じているが、高校生の認知度は相当低い。峡南高等技術専門校を内容的にも強化充実して欲しい。

大学を卒業後あらたに専門学校に入学する者が増えている。産業技術短期大学校、高等技術専門校は非常に大きなニーズになることは間違いない。

高校生の中にはフリーター・アルバイトでよいと思っている者が多く見受けられる。社会人になるという意識が希薄に感じられる。専門校でもテクニカルスキルのほかに、ヒューマンスキルという部分が大切である。

離転職者についても、テクニカルスキルと同じくらいヒューマンスキルの厚みが年齢なりに必要とされる。

生徒募集では、自己の施設・授業内容の特徴を深く認識し、ガイダンス等の参加者に綿密に対応をする必要がある。

高校の場合インターンシップを通じて職業意識に関する教育をしっかり行っている。より高い教育キャリアを持つことが進路を狭めているという悪循環がある。小さいうちから職業に対する意識などを訓練していく必要がある。

今後大学教育や高校教育に何を期待するのか、そういうこととつなげて提案することが大切である。

